

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
42
2015

地域No.1の医療とサービスを目指して

特集 | ボランティアいきいき会15周年

DOCTOR'S VOICE 01 あらゆる側面から子どもの健康・行動・発達をサポート

DOCTOR'S VOICE 02 四国がんセンター院長に聞く



ボランティアいきいき会15周年

患者さんに温かみと安心と安らぎを感じていただくことが活動の使命

いきいき会代表 寺岡陸雄

患者さんに安心と安らぎを提供する活動に努めてきた病院ボランティア「いきいき会」は、今年、発足から15周年を迎えました。最初は10名前後で始まったこの活動ですが、病院のスタッフや患者さんたちに認められていったことで、4年目には、当時の病院長の配慮でボランティアいきいき会室という専用の活動場所を設置していただきました。ボランティアメンバーもだんだんと増え、今では200名を超す大所帯となり、同時にボランティア活動も多岐にわたるものとなりました。

病院では、医療の専門の方々が患者さんのために働いていますが、専門外のボランティアの立場で、患者さんの病院でのあり方をサポートできることもあると思います。いきいき会は当初より、患者さんには安心と安らぎを提供し、病院にはよりよい療養環境をつくるサポートとして、地域社会に対しては病院と地域社会の橋渡しする役割として活動しています。黄色いエプロンをつけたボランティアが、病院玄関で診療の説明や移動介助、環境美化や各種行事を行ったり、図書館や折り紙などの交流教室の運営などをしておりながら、黄色いエプロンを見て安心や安らぎを覚えるという患者さんからの声も多く上がるようになりました。様々な活動を通して、多くの人の出会いや、患者さんからの感謝の言葉で、ボランティアメンバーも活動の意欲と元気をいただいている。同時に、小さくとも社会貢献に寄与しているという自負心もあり、ボランティアをしている自分たちの心も豊かになっていきます。

いきいき会ではボランティアとして大勢が活動しているので、安全管理や患者さんとのトラブルには気をつけています。怪我をしない・させないということを徹底しているおかげで、活動を始めてからこれまで事故やトラブルが起ったことはありません。これからも、引き続き万全の注意を持って活動したいです。また、患者さんには様々な年代や立場の方がおられることから、ボランティア研修も毎年欠かさず行っています。常に「今日に学び、明日に実践する」活動であるよう、ボランティア一人ひとりが努力しています。

いきいき会ではメンバーを常時募集しています。ボランティアに関心がある方、信頼できる仲間と楽しく活動しませんか。



感謝状贈呈式及び懇親会を開催しました。



PROFILE

てらおかむつお◎自衛隊に勤務し、退職後、県内病院の事務局長を務める。樋本先生から誘われ、ボランティア活動をはじめ、いきいき会の代表を設立時から続ける。趣味は読書、カラオケ。



いきいき会は日本病院ボランティア協会に加入し、日々活動を行っています。



病院玄関で最初に出会うのはボランティアです。この時の対応次第で、患者さんの気持ちを左右します。

医学部附属病院のここがすごい「子どものこころセンター」

児童精神医療の地域中核病院として地域に根ざす

子どものこころセンター長 堀内史枝

子どものこころセンターは、児童が精神科を受診することへのためらいや、新生児期から成人期への継続した支援の困難さ、発達障害や精神障害に並存する生活習慣の問題など、児童精神科医療が抱える課題の解消に向けて設立されました。胎生期から思春期まで継続した診療体制を確立し、子どもの精神と体の発達の問題を早期発見・早期介入して、健全な発達を促進することを目的としています。小児科、精神科、周産母子センター、睡眠医療センターが連携して診療にあたり、子どものこころの問題に悩みながらも受診を躊躇しているご両親と子どもへの迅速な対応を目指しています。

当センターでは、小児科医師と児童精神科医師の協働による診療体制をとっているため、どちらにも気軽に相談でき、心と体、両面から診療ができるよう心がけています。また、子どもの生活習慣の確立も重要と考えており、睡眠の問題については、睡眠医療センターで精査および治療を受けることができます。

今後は、子どものSOSサインにできるだけ早期に介入できる体制をとり、より健全な発達をサポートする体制作りを目指しています。これまで出生前の妊婦さんの精神的なケアは行っていましたが、出生後の子どものフォローまではできていませんでした。妊婦さんのケアから子どもの発育のサポートまで途切れず支援することで、子どもの発達に関する問題の予防にも繋がると考えています。



PROFILE

ほりうちふみえ◎平成10年愛媛大学医学部卒業。雄岡病院、ロンドン大学を経て、当院へ。専門は児童青年医学、睡眠医学。

FROM VIP DOCTOR

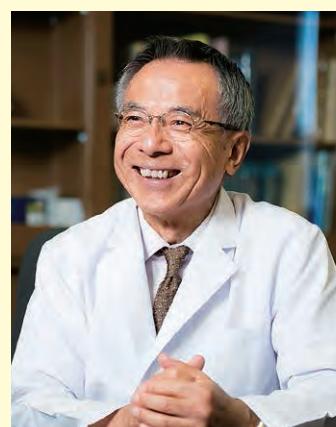
愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR に聞く』

愛媛県全体の医療を引っ張る意思と存在を期待します

国立病院機構四国がんセンター院長 栗田 啓

附属病院に期待していることが3つあります。一つ目は、愛媛県全体の医療を把握、統括し、行政を含めた関係機関を巻き込み、特殊な疾患・難病を含めて様々な疾患に対応していただくことです。二つ目は県下の病院への医師の派遣です。医師不足は深刻化し、がん診療連携拠点病院でも実診療・検診に手がまわらない状態です（私の病院でも麻酔科医と内視鏡医が不足）。その状況で「専門医制度」という新しい制度が始まります。この制度をきっかけに、附属病院がリーダーシップをとり、医師不足の解消に努めてほしいです。三つ目は各診療科の繋がりの強化です。四国がんセンターはがんという共通の命題のもと、各臓器別に診断、治療の専門医と看護師をはじめとした医療スタッフがチームとして診療を行っている為、繋がりは強固です。附属病院のチームとしての各診療科の繋がりに期待したいです。

最後に、附属病院は内視鏡手術のシミュレーション施設を作り、病院外からも研修を受け入れ、教育されています。渡部祐司先生（消化管・腫瘍外科学講座教授）を中心に、必要な施設を揃え、地道に教育する姿勢は素晴らしいと思います。私達もそれに負けず、これからも附属病院との連携を強め、患者さんの立場に立った最良のがん医療を提供したいと考えます。



PROFILE

くりたあきら◎1976 岡山大学医学部卒業。岡山赤十字病院、岡山大学医学部附属病院第二外科などを経て、国立病院機構四国がんセンターへ。2013年から現職。専門は消化器がん（食道・胃）。趣味は美術館巡り。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

愛媛研修医OSCE大会を開催



平成27年7月11日(土)、当院地域医療支援センターにて、愛媛研修医OSCE大会を実施しました。OSCE(客観的臨床能力試験)とは、模擬患者を相手に本番さながらに診療や治療を行い、診療手順や患者とのコミュニケーションの取り方等をチェックし、試験官が改善点を助言する試験です。

今回のOSCEを受けた研修医は11名で、模擬患者や医学教育用シミュレータを相手に、診療や検査手技等の課題に取り組みました。

臨床研修チーム ☎089-960-5098

かかりつけ医キャンペーンを実施



平成27年10月1~31日、かかりつけ医キャンペーンを実施しました。かかりつけ医とは、患者さんやご家族の生活環境、健康状態を把握し、病気の時だけでなく、日頃から健康管理についてもアドバイスしてくれる医師のことです。当院では、患者さんを地域で守っていくためにも地域の医療機関と連携し、継続性のある的確な医療が受けられるよう、かかりつけ医を持つことを推奨しています。患者さんにかかりつけ医を持つことの必要性や利点についてご理解いただき、今後もかかりつけ医の普及に努めます。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5261

臓器提供研修会を実施



平成27年9月28日(月)、5歳児が交通事故で脳死状態になったと想定し、小児脳死下臓器提供シミュレーションを実施しました。小児脳死下での臓器提供には、警察、児童相談所、移植コーディネーター等外部機関との連携が必要です。スムーズな臓器提供が行えるよう2回に渡る脳死判定や倫理委員会を開催し、さらには、臓器摘出・搬送方法等一連の流れを緊張感を持って行いました。

当院では、今後もシミュレーション等を実施しながら、実際に臓器提供が発生した際には迅速に対応できるように、体制の強化を図っていきます。

総務課企画・広報チーム
☎089-960-5943

編集後記

本号の表紙は10月に行われた災害訓練の様子です。愛媛県はここ30年間に巨大地震が発生する可能性が約70%とされており、その際、医療機関は強力な医療活動を行うことを期待されます。当院では、備蓄倉庫を設置し、災害訓練を実施するなど、震災時における医療活動の拠点となるべく医療支援体制を整備しています。

また、中面では、当院ボランティア団体「いきいき会」の寺岡代表に今後の抱負等についてお話をいただきました。他にも四国初となる子どものこころセンターの紹介、四国がんセンターの栗田院長から当院に期待することについてお話を伺っています。

朝夕一際冷え込む頃、時節柄ご自愛の程お祈り申し上げます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙
南海トラフ巨大地震などを想定した大規模災害訓練の様子

とうおん健康医療創生事業のスタート



平成27年7月28日(火)、東温市役所にて、とうおん健康医療創生事業を立ち上げ、第1回目の研究会及び部会を開催しました。本事業は地方再生の大きな問題に対し、「三世代同居のまちづくり」

を一つのキーワードに、本学医学部を中心とし、東温市の各企業が連携することで、地場産業のモノづくり力(技術等)と大学の持つノウハウ等を融合し、特殊かつ専門性の高い新たな製品・サービスの開発や、高付加価値のものづくり分野への進出等健康的に暮らせる地域社会の創生を目指します。研究会では、今村健志研究会委員長(分子病態医学講座教授)から挨拶があり、研究会、部会の在り方など、今後の方針について話し合いました。今後も本研究会を中心に、産官学の連携を密にし、住みやすい街づくりへ貢献していきます。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>